MAST

Mikawa Akabane Shizuoka Toyohashi

岡崎教区広報誌
2021年1月
創刊号

発行所／真宗大谷派岡崎教務所
発行人／安田　雅
編集／教区教化委員会メディア部会
印刷／ブラザー印刷株式会社

MAST 発刊に寄せて
岡崎教区教化委員会の取り組み

寺院活動紹介
　コロナの中心で仏法を叫ぶ
　心にしみる法語めぐり
田原惟信という人を知っていますか

写真：初日の出に向かって出航

さあ、『ＭＡＳＴ』いざ出航です！

岡崎教務所長　安田（やすだ）　雅（まさし）

教区の皆さまには、平素から宗門護持並びに教区教化事業の推進のために、ご尽力賜っておりますこと厚く御礼申しあげます。

さて、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、私たちの日々の生活が一変しました。

寺院においても多人数が集まる行事は開催しにくく、人が集い、教えを聞き、語り合う「仏法聴聞の場」を開くことが困難となったことは、真宗寺院の在り方が根本から問い直されることとなりました。今まで縁を絶やすことのないよう、感染リスクを抑えながら真宗の教えをこれまで以上に積極的に発信していく新たな教化伝道のかたちが求められています。

すでに本山や他教区においても、法話の動画配信やオンライン研修など新たな取り組みが始まっています。また、各寺院においても、寺報や掲示板、法語ハガキなどの文書伝道についても改めて注目されております。

そのような状況のもと、当教区においても、あらゆる媒体・メディアを活用し積極的に教えを発信し、情報を共有していく取り組みを今年度より始めてまいりたいと思います。

その第一弾として、このたび『ＭＡＳＴ』を発行いたします。毎月『教区通信』を寺院・教会及びご門徒の役職者の皆さまにお届けしておりますが、当然のことながら事務的要素が強く、教区全体の動きや情報をお伝えするには至っておりませんでした。

この『ＭＡＳＴ』は岡崎教区の広報誌として位置づけ、年三回の発行を予定しています。教区の動きを伝える広報的要素はもちろんのこと、次代へ伝える記録的要素も念頭に、教区内で様々なかたちで教化事業に取り組んでいる「人」や開かれた「場」を紹介します。紙面を通じ人の交流と場の創造が展開できるよう編集・発行してまいりたいと思います。

なお、この『ＭＡＳＴ』という名称は、教区内にある三河、豊橋、赤羽、静岡の各別院の頭文字（Ｍ・三河、Ａ・赤羽、Ｓ・静岡、Ｔ・豊橋）からとりました。『ＭＡＳＴ』とは帆船の「マスト」に通じ、「仏法」という帆を張るための根幹となります。つまり『ＭＡＳＴ』が寺院・門徒の教えの発信源となるようにと願いを込めて命名されました。

さあ、『ＭＡＳＴ』いざ出航です！

安田　雅
1965年生。2017年7月より岡崎教務所長
兼三河別院輪番。

リアルを求める人々に向けて
言葉を、存在を届けていきたい

教区教化委員会主幹　安藤（あんどう）　誠也（せいや）

このたびの任期改選により、教区教化委員会主幹を再任いただき、三期目となりました。改めて教区の皆さまからご意見を賜りながら、教化事業を進めてまいりますので、何卒よろしくお願いします。

さて、前年度後半は、新型コロナウイルス感染症の影響により教区や組における教化事業のほとんどが中止や延期とする渋の決断を強いられました。現在においてもコロナは収束したわけではなく、今後も状況を見極めながらの教化活動となります。

そして、今年度の教化事業は、教化委員の任期の始まりにあたって、上半期における事業を点検し、その役割として担うべき事業に「選択と集中」する見直しを図ってまいりました。そして、感染防止対策を講じ、下半期からいよいよ事業を再開してまいります。

コロナの状況下、人に会うことが難しい世の中にあって、メディアを活用した広報・伝道はこれまで以上に重要性が増すと考えています。既存の広報・伝道の在り方を見直し、更なる充実が求められているのだと思います。

そこで、このたび教区の皆さまに「教区広報誌『ＭＡＳＴ（マスト）』」をお届けします。

コロナの影響で、対人関係の見直しを余儀なくされました。しかし、これは今に始まったことではなく以前から、人間関係の煩わしさから解放されたいと望む傾向がありました。

こんな時代だからこそ「届ける」「伝える」ということは決して簡単なことではないのだと、教化委員会に身を置き、いろいろな方との交わりの中で痛感しています。

「いまさら紙媒体でいいのか」「ＳＮＳを積極的に利用することが優先じゃないのか」「誰に読んでもらいたいのか」など、様々な議論を重ねてまいりました。その結果、ウェブ媒体のような即時性はありませんが紙媒体と両方を駆使することで、広く多くの人に届けることが可能であり「手紙」になぞらえて、あえて紙媒体で皆さまのお手元に届けることになりました。

まずは、お手に取っていただき、見て、読んで、忌憚のないご意見をいただきたく思います。このような時代であってもリアルを求める人々に向けて言葉を、存在を届け、人と人との間柄を縮めていける、そんな『ＭＡＳＴ』にしていきたいと思っています。

安藤　誠也
1967年生。第15組隨巖寺（ずいごんじ）住職。
2014年より教区教化委員会主幹。

六部会からなる岡崎教区教化委員会の取り組みを紹介します

「教区教化委員会」は僧侶も門徒も一人ひとりが真宗の教えに生きる者になることを願う真宗同朋会運動の精神に基づき、教化事業を推進することを目的に組織されています。この目的を達成するために、僧侶及び門徒のための学びの企画と実施、教化推進のための情報の収集や発信などをその業務としています。

岡崎教区の教化委員会は、真宗基礎講座部会、研修部会、同朋社会推進部会、青少幼年教化部会、メディア部会、史料調査部会の六部会から成り、教務所長が教化委員長の任にあたります。各部会には部長・副部長が置かれ、委員の任期は三年です。

各部会からは一名の幹事が選ばれ、教区の総合的な教化計画を策定する「幹事会」が行われます。現在は各部会の部長が幹事となっています。幹事会は代表である主幹も含め七名で構成されています。

教化委員会の事業が適切に行われたか・計画されているかということを協議するため、また、教化委員会各部会間の連絡等を行うため、「執行委員会」が置かれています。

教区教化委員会は各部会の事業を行っていくとともに、教区・各地域・各組の教化活動が連携しあうことのできる教化体制の構築も行っていきます。

今後も教区に必要とされる教化事業とは何か、真宗の教えを広く伝えていくためにどんな教化活動をすれば良いのかということを常に考えながら教化事業に取り組んでまいります。教区内の皆さまにはご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

次頁から各部会の取り組みをご紹介いたします。

岡崎教区教化委員会組織

【任期:2020年6月1日～2023年5月31日】

教化委員長	安田　雅					
教化委員会主幹	安藤誠也					
執行委員会	安藤誠也	稲前恵文	泉　敬祐	杉浦　圭	碧海文俊	平野　暁
	田中　弘	加藤勝男	青木一範	一郷　真	杉浦智見	
幹事会	安藤誠也	青木一範	一郷　真	杉浦智見	杉浦　圭	碧海文俊　平野　暁

真宗基礎講座部会
◎青木一範
○御舘　諒
宮部　聡
西山　恩

研修部会
◎一郷　真
○三浦　共
杉浦　誠
本多　証
松林　至
大谷郁雄
畝部真紀
勧山法紹

同朋社会推進部会
◎杉浦智見
○加藤　誠
大溪昌寛
加藤勝男
渡邊　潤
境　広昭
荒木道子

青少幼年教化部会
◎杉浦　圭
○小野大樹
小栗貫次
清澤唯真
清澤紫津世
榊原　宏
中根　大
本多寛慶
野々山眞知子

メディア部会
◎碧海文俊
○中根浩正
上野　瞭
京極直哉
小山興円
芳野　弘
安藤信生
別符浩瑛

史料調査部会
◎平野　暁
○岡本　摂
大原雅幸
熊谷祐介
長谷部悠弥

◎部長　○副部長

また参加したいと思える座談の可能性を探ってまいりたい

真宗基礎講座部会

真宗基礎講座部会では、これまで「同朋の会」や「組の法座での座談会」の場が、より良くなるための方法の検討を重ね、実践の場を開いてまいりました。

主に各組同朋の会教導を対象として「雑談から始める座談」という方法を取り入れながら実践し、各組・各寺院での座談の場へのアプローチがスタートしました。

本年度からは、各組へ展開する予定で、現在数ヵ組での真宗基礎講座の実施が検討されています。

第十四組が昨年度まで実施した組の法座では、テーマ決めから法座まで、門徒の皆さんと「雑談から始める座談」を行い、気楽に参加できる平易な共学の場ができてまいりました。

今後は、部会作成のリーフレット『お寺での座談を居心地がいいものにするための工夫』を活用しながら、各地の僧侶・門徒の皆さんと一緒に教えや仏事などに対する疑問や知りたいことをクイズ形式にしていくなど、また参加したいと思える座談の可能性を探ってまいりたいと思います。

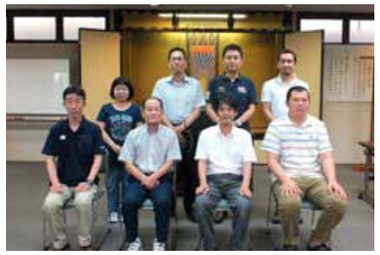
「“共に”を歩む」をテーマに

研修部会

研修部会は、住職・寺族及び門徒の学習教化の事業を担っています。具体的には、「得度研修会」、「伝道研修会」、「新任教師のつどい」、「教区門徒会研修」の四つです。これらの事業を立案し遂行するにあたり、静岡と三河から男女計八名の二十から七十歳代の寺族と門徒が委員として関わっています。

また部会内で独自のテーマ「〝共に〟を歩む」を年度はじめに確認しました。これは前部長や委員が大切にしてきたテーマを引き継ぐ形です。様々な方を対象にした研修の実施をしていく上で、そこに関わる者同士がそれぞれの思いや考えを尊重したチームプレイが成り立つような部会運営と研修の実施を継続して目指そうという意志が表明されています。

新年度の幕開けは新型コロナの影響もあり、不慣れなオンライン会議も併用しながら部会一同鋭意努力しておりますので、今期「研修部会」へも教区の皆様からの温かなご支援をお願い申しあげます。



今、私たちの生きる時代の問題は何なのか 様々な問題や災害について学んでいます

同朋社会推進部会

親鸞聖人は私たちに〝御同朋御同行〟と呼びかけています。仏さまは、どんな人でも仲間外れにせず、お念仏申す人はみな仏さまの友だちなのです。しかし、私たち人間の社会は、戦争や差別を繰り返してきました。

私たちはどのような世界を願うのか。私たちの生きる時代の問題は何なのか。同朋社会推進部会では、靖国問題や差別問題を通して学んでいます。近年は沖縄戦の歴史と沖縄の現状を学ぶ中で、岡崎教区出身の田原惟信氏と出会い直す取り組みも行っています。ハンセン病問題については、国立駿河療養所の真宗講の実施が年々難しい状況となっていますが、ハンセン病と真宗について歴史的背景からの学び直しを行っています。部会内の災害ボランティア実行委員会では若い力も加わって、これから想定される災害に対する学び合いが行われています。

様々な問題があり、様々な学習会等がありますが、教区の方々とともに学びを深めていきたいと思います。

教区の青少幼年教化のために

青少幼年教化部会

青少幼年教化部会は、二〇一四年に教区教化委員会に設置されて以来、青少幼年教化に関する事業として幼少年対象事業・青年対象事業・教区合唱団の活動支援・児童夏の集いに取り組んでいます。

幼少年対象事業は、本山青少幼年センターが提唱する「一ヵ寺一子ども会」「ひとりからはじめる子ども会」への取り組みを基軸に事業を展開しています。

青年対象事業は、「仏縁」をキーワードに据え、将来的に住職と共に歩みだす人の誕生を願いとして事業に取り組んでいきます。

教区合唱団は、別院や寺院の法要に合唱の機会をいただいています。一緒に歌ってもらえる団員も募集中です。

「児童夏の集い」については、長年にわたり教区の児童教化事業として親しまれてまいりましたが、昨今は夏の猛暑等の課題があり、現在その取り組みを見直しています。

今後も教区の青少幼年教化のために何が必要かということを検討し、実施してまいります。

メディアとは何か？

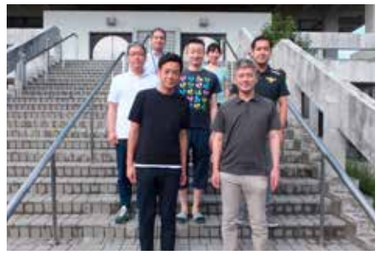
メディア部会

「メディアとは何か？」と聞かれたときに、明確に答えられる人は少ないと思います。メディアには二つの意味があります。一つは情報「記憶」媒体として、もう一つは情報「伝達」媒体、つまり人から人へ情報を伝える媒体、手段です。

私たちメディア部会は岡崎教区の教化推進に必要な情報の収集・発信及び教材の作成を行っています。具体的には①インターネットによる情報発信、②教区所蔵の資料と図書の整理活用、③教区内寺院による各種メディアの活用推進、④今年度からは本誌「岡崎教区広報誌『MAST』」の編集と発行です。

新型コロナウイルス感染症拡大により、法話を中心とした仏事の場が限られ、情報発信としても多くの課題が見えてきました。その課題の一つに伝える「内容」が挙げられます。

今後はあらゆる世代に向けての伝道ということを、手段だけではなく伝えるべき情報そのもの（コンテンツ）もあわせて皆さんとともに考えてまいりたいと思います。



時には住職もご存知なかった 貴重な史料が発見されることも

史料調査部会

史料調査部会は、教区内寺院の史料調査やそれらの史料を展示する法宝物展示会、展示会の内容について学ぶ法宝物学習会を主な活動としています。

史料調査は教区内全ヵ寺の調査を目標に、年間数ヵ寺の調査を行っています。調査では史料の記録や保管状態の確認をし、時には住職もご存知なかった貴重な史料が発見されることもあります。住職の代が変わると、お寺にどんな史料があるのか次の方に伝わらないこともあるかもしれません。そんな時、お寺の史料についての情報を部会からお伝えできるように、これまで行った調査記録の整理も進めていきたいと思います。

毎年の三河別院報恩講期間中に開催する、法宝物展示会では、教区内寺院のご協力のもと貴重な史料を展示しており、遠近各地より多くの方々にお越しいただいています。展示会のたびに教区の真宗の歴史の深さを実感しています。また、展示物をまとめた史料集も発行しています。

今後も活動を通して教区の真宗史を学び、皆様にお伝えしてまいります。

コロナの中心で仏法を叫ぶ

第16組本證寺　小山　興円

雲龍山本證寺住職。1206年開創。三河一向一揆の拠点の一つ。
国指定重要文化財の聖徳太子絵伝などの寺宝を所蔵。

住所：愛知県安城市野寺町野寺26

二〇二〇年一月、中国武漢で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者が報告されてから、瞬く間に感染は広がり、世界は一気にその様相を変えた。

飛沫感染を防ぐため、生活のあらゆるシーンで人と人との接触が制限され、それはお寺の活動も例外ではなく、葬儀・法事の縮小、あるいは延期、法要は参詣者・法話なしの内勤め、月参りは毎度お伺いを立てる…。その影響には、枚挙に暇がない。

大きな流れの前になすすべもなく、また近年危惧されている寺離れが一気に加速したようで、不安と混乱の只中におかれた。

しかし、親鸞聖人が「生死無常のことわり、くわしく如来のときおかせおわしましてそうろううえは、おどろきおぼしめすべからずそうろう。」（『末燈鈔』）と仰るように、生は偶然、死は必然の事実。仮に新型コロナウイルスに罹らなくても、必ず死すべき身を生きていることを、すでに私たちは仏法に聞いている。

今、その仏法が私にまで伝わっているということは、かつて幾度も困難を乗り越え、必死に繋いでくださった方があったという証であろう。だから、人がある限り、お寺は決してその営みを止めることはできない。

その先人の意志を受け継ぐべく、手探りではあるが、私がお預かりしているお寺での対応を紹介したい。

まず、感染症対策として、特別受付を設け、アルコール消毒・マスク配布・非接触型体温計による検温・緊急連絡先記帳・出入り管理のための使い捨てのリストバンド装着・席間を取っての椅子配置・アクリル板衝立などを導入した。

これらは、感染症対策もさることながら、まず何よりも、参詣者の不安緩和を目的としている。

また教化伝道のため、あらゆる案内に文書法話を同封するようにした。普段お寺に来られない方にも、仏法にふれていただく機会ができた。

さらに、以前より計画していた法要・法事のオンライン配信環境を整備した。受信側には丁寧な説明が必要だが、ご遠方の方にも双方向リアルタイムで法要に参詣いただき、概ね好評だった。

ただ、オンライン配信はあくまでも補助的なものでしかない。テレビを視るような感覚での聴聞は難しい。共にお勤めし、法話を直にいただく。オンライン配信を通してむしろ、その場に身を置く「ライブ」での法要の大切さを感じている…。

全てが手探りで、何が正解かはわからない。

「このご時世、お寺に参るのはちょっと」「何かあったら、あなた責任が取れるのか」。

この半年の間、何度もいただいた言葉だ。厳しい現実を、改めて突きつけられた思いがする。同時に、新しいアプローチで教化に臨むべき時期に来ているとも教えられた。

今まで当たり前にできてきたことが不可となり、変化を迫られる場面がこれからもあるだろう。しかし、どんな形であれ、仏法をお伝えするという一点を外さなければ、まだまだやれることは多々あると思う。

先人の紡いでくださった道を、新型コロナウイルスと共に歩んでいきたい。

非接触型体温計による検温

ソーシャルディスタンス

オンライン法要

「心にしみる法語めぐり」

期　　間：第1弾　2020年11月1日～ 2021年1月10日
第2弾　2021年1月20日～ 3月31日
問い合わせ先：第1組組長　本多　弘（専福寺）
☎0564-21-5647
※第1組…岡崎市中心部エリア

新型コロナウイルス感染症の影響により、教区内の寺院でも状況を見極めながら法事や報恩講をお勤めされていることと思います。教えの場を絶やさないために感染防止対策をし、規模を縮小するなど、これまでとは違うかたちのお勤めが模索されています。

そんな中、第一組では「心にしみる法語めぐり」と題して、法語を書いて集める台紙が作られました。例年は「報恩講めぐり～スタンプラリー～」と題して、ご門徒が組内寺院の報恩講をいくつかお参りし、スタンプを集めていくというかたちになっていました。

しかし、コロナの影響により三密を避けるため、今回はスタンプラリーを休止することになりました。そこで、こんなときだからこそ法語に出あっていただきたいという願いのもと、この台紙が作られました。台紙には、寺院の写真や手書きによる地図など、とても親しみやすい内容で紹介されています。

期間中に第一組内の寺院において、法語が掲示され、その法語を台紙に書いて集めていくと後日粗品が贈呈されるそうです。皆さんもこの機会に法語めぐりをしてみてはいかがでしょうか。詳細については、第一組寺院へおたずねください。

情報提供をお願いします　組や寺院の教化活動で、工夫されている事例がありましたら情報を教務所までお寄せください。

田原惟信という人を知っていますか

～沖縄に渡った岡崎教区の先達の足跡をたずねて～

岡崎教区駐在教導　杉山（すぎやま）　寧（やすし）
1965年生。2015年9月から岡崎教区駐在教導。

第一回　教区主催の沖縄現地研修でのできごと

「田原惟信（たはらゆいしん）さんは岡崎教区出身の方でしたね」。

沖縄県糸満市米須にある「魂魄（こんぱく）の塔」の前で説明をしてくれた長谷暢氏（沖縄別院職員）からの問いかけにうなずいたのは四十五名参加のうち、親戚寺院にあたる坊守さん一人だけであった。

戦後、野に散乱していた戦争犠牲者の遺骨を収拾して「魂魄の塔」を建立し、「ひめゆりの塔」「健児（けんじ）の塔」にも尽力した惟信氏。岡崎教区の寺院出身であることを参加者が初めて知る沖縄現地研修（二〇一七年四月実施）となった。

田原惟信氏は旧姓山田惟信といい、安城市古井の願力寺の次男として一九〇九（明治四十二）年に生まれた。安城小学校、岡崎中学校へと進み、幼い頃から読書と絵が好きで画家を目指していたそうである。実父の山田惟孝（ゆいこう）氏は「友山」の雅号で三河では名の通った画家であった。その父のすすめによって真宗専門学校（現・同朋大学）で学び、一九三二（昭和七）年の卒業後間もなく、親戚であった暁烏敏（あけがらすはや）氏のすすめで那覇市の真教寺に行くこととなった。

当初は、病身であった真教寺二代目住職の田原法馨（ほうけい）氏の住職の代理として法務手伝いをする予定であった。

しかし、惟信氏は入寺の意向まではなかったようで、その様子は兄である亮賢（りょうけん）氏の手紙に伺うことができる。言葉や気候、生活習慣が異なる土地に行かせることの親族の心配が尽きないことは想像できる。

沖縄に渡った二年後に住職の法馨氏が亡くなり、一九三五（昭和十）年に惟信氏は第三代真教寺住職に就くこととなった。

一九四四（昭和十九）年十月十日の那覇空襲によって、真教寺は焼失した。二十万人以上の犠牲を出した凄惨（せいさん）な沖縄地上戦の終結の激戦地となった摩文仁（まぶに）で惟信氏は生き延びた。

沖縄で念仏者として生きた田原惟信氏の足跡を今後お伝えしたい。

魂魄の塔
3万5千体の遺骨が納められた。6月23日の慰霊の日には親族の骨を拾えなかった人々がお参りする。

願力寺にて
戦後、故郷である三河に帰り、法要に出仕した惟信氏。

みんなの掲示板　おいでんみりん

日 日時　会 会場　講 講師　内 内容　テ テーマ　費 参加費

※新型コロナウイルス感染症の影響により、急きょ変更となる場合があります。

教区

「ハンセン病問題学習会」
日 1月22日㈮ 14時～16時
会 教区会館大ホール
講 訓覇　浩 氏（三重教区金蔵寺）
内 ハンセン病問題について
※教師陞補対象研修（一種）

「法宝物学習会」
日 2月22日㈪ 13時30分～15時30分
会 教区会館大ホール
講 吉田　一彦 氏（名古屋市立大学教授・副学長）
テ 「聖徳太子と親鸞聖人」
※教師陞補対象研修（一種）

「法宝物展示会」
日 3月3日㈬～8日㈪ 9時30分～16時（最終日は15時30分で閉館）
会 三河別院東別院会館2階
内 「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年お待ち受け　聖徳太子一四〇〇回忌」展

「教区災害ボランティア研修会」
日 4月16日㈮ 10時～12時
会 三河別院
講 栗田　暢之 氏（レスキューストックヤード代表理事）
内 寺院が避難所となった場合の対応について

地域

東三河地域教化センター（豊橋別院）

「聖教学習会」
日 1月15日㈯ 14時～16時
講 平原　晃宗 氏（京都教区正蓮寺）
テ 「歎異抄に聞く」
費 500円

赤羽地域教化センター（赤羽別院）

「真宗講座」
日 1月21日㈭ 14時～16時
2月25日㈭ 14時～16時
3月25日㈭ 14時～16時
講 四衢　亮 氏（岐阜高山教区不遠寺）
テ 「お念仏の救い」
費 500円

「装束作法」
日 2月8日㈪ 14時～16時
講 織田　顕慶 氏（第8組宿縁寺）
内 七条袈裟の依用及び作法の習得

「内陣作法」
日 3月9日㈫ 14時～16時
講 織田　顕慶 氏（第8組宿縁寺）
内 寺院における御遠忌法要厳修に向けた作法の習得

団体

「第2回　教区坊守研修会」
日 3月11日㈭ 13時～15時
会 教区会館大ホール
講 一楽　真 氏（大谷大学教授）
テ 「南無阿弥陀仏　人と生まれたことの意味をたずねていこう」（慶讃テーマ）
費 500円

有志

「正信偈学習会」
日 4月15日㈭ 13時～　会 三河別院
日 5月26日㈬ 13時～　会 豊橋別院
講 四衢　亮 氏（岐阜高山教区不遠寺）
内 正信偈のことばの解説だけでなく、私にまで伝わった本願の歴史、親鸞聖人のお心を深く掘り下げて学ぶ講座です。
問 小栗　貫次
☎ 090-4252-7146

組、有志で公開学習会の案内掲載希望の場合は教務所へお問い合わせください。『MAST』は年3回（1月・5月・9月）の発行予定です。紙面の都合で、掲載できない場合があります。

正信偈書写本リニューアル

二〇二三年にお迎えする「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」に向け、『正信偈書写本』をリニューアルしました。

このたびの書写本は、慶讃法要で依用される和讃や同朋奉讃を新たに収録したほか、書写後は和綴じにできる仕様に変更。正信偈の書写をとおして朝夕のお勤めをはじめとした仏事を見直し、共に慶讃法要をお迎えすることを願いとしています。

是非とも、各寺院・教会における同朋の会などで正信偈書写本をご活用ください。

取扱金額　2000円

法語

相手を鬼とみる人は自分もまた鬼である

曽我量深

曽我　量深（そが　りょうじん）

1875年（明治8年）～1971年（昭和46年）
新潟県生まれ。大谷大学学長・同大学教授、東洋大学教授などを歴任。

教区慶讃事業について

このたび、教区における慶讃事業の基本方針を策定することを目的とした「岡崎教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業に関する検討委員会」が設置されました。

委員会では、二回にわたってワークショップを開催し、班ごとに教区の「強み・弱み」となる課題を抽出し、課題を可視化しながら、教区の将来像、アクションプランを考え、発表しました。

今後内容をとりまとめ、今年度中に教区における慶讃事業の基本方針を策定してまいります。

住職就任

第8組　宿縁寺　織田　顕慶
第12組　願海寺　壹郷　直人
第25組　守網寺　渡邉　貴之
〔二〇二〇年八月二十八日就任〕

幸田組　安樂寺　芦谷　研吾
第27組　願永寺　鵜井　浩
〔二〇二〇年九月二十八日就任〕

第8組　安樂寺　伊奈　恵祐
〔二〇二〇年十月二十八日就任〕

編集後記

創刊号発刊にあたって

半年前、教務所員から「教区の広報誌を作りたい」という熱い話がありました。

以前から「みんなが見てくれる教区通信を作りたいよね」という声はでていましたが、気持ち的には同意だが、いざ創るとなると大変だし誰がやるの、といった感じだったのです。

しかし、いざ港を出た船は帆に風をうけ、みるみるうちに進んでいきました。このことは教区の「未来へ進む原動力」がかたちになったものです。創刊号はまだまだ微風ですが、より多くの風を受けても折れない強く太いマストを目指していきます。みなさんのお声をお寄せください。（編集長：あおみ）

みなさまの声をお聞かせください

『MAST』に対するご意見、ご要望をお寄せください。下記メールアドレスにて受け付けております。より多くの方に、手に取っていただける教報にするためにみなさまのご協力をお願いします。

岡崎教務所（MAST担当）
okazaki@higashihonganji.or.jp

見つけよう、生まれた意義と生きる喜び
～生活の中心に南無阿弥陀仏を～

岡崎教区ホームページ
岡崎教区facebook